

秘密保護
法案

「自由なくなった自民」 「全体主義になる怖さ」

80年代スパイ防止法案反対の自民議員ら



村上誠一郎・元行革担当相



白川勝彦・元自治相



佐藤栄佐久・元参院議員

参院で審議が始まった特定秘密保護法案。1980年代に同じような「国家秘密法(スパイ防止法)案」が国会に提出されたが、世論の反対で廃案に追い込まれた。あれから30年近く。当時、自民党の若手議員として反対の前面に立った人々はいま、何を思う。

▼1面参照

■87年に雑誌「中央公論」で表明した意見(抜粋)

【村上誠一郎氏】
基本的人権に関わる情報公開の原則を確立することこそが急務。

【白川勝彦氏】
国民が国政の情報を集め、利用する権利は阻害してはいけない。

【佐藤栄佐久氏】
統制社会が国家を衰退させることは歴史が証明している。

26日の衆院本会議。自民党でただひとり、特定秘密保護法案の採決を棄権した議員がいた。元行革担当相の村上誠一郎氏(61)。「法案には政治家として自信が持てないから」と言った。

自民党がスパイ防止法案を提出した翌86年、村上氏は初当選した。現法相の谷垣禎一氏ら若手議員と法案に反対の意見書を党に提

出。87年には雑誌「中央公論」で反対意見を表明した。今回の法案について、米国の制度と比べ、①秘密指定期間が最長60年にもなる②第三者の監視機関がない③政府に不利な情報の指定を禁止する規定がない、などを挙げ、「問題がいっぱいあるってことだよ」。

元自治相で今は弁護士の大川勝彦氏(68)も意見書に「批判する権利」でもあり、「国家が秘密にしたことが正しいかどうかを批判する権利は誰もが持ち、ま

「自由がなくなった」。参院議員の後、福島県知事を務めた佐藤栄佐久氏(74)も当時の自民党との違いを指摘する。派閥を超えて若手議員が同じ思いで声を上げた当時に比べて、「議論しようという空気がない」。

国会の審議にも違和感を感じている。「法案が簡単に通ってしまった印象。安倍首相のもとに簡単に進んだ」(匿名林業、佐藤恵子)



官邸前で抗議

特定秘密保護法案が衆議院を通過し、参議院で審議入りしたことを受けて、東京・永田町の首相官邸前で27日午後6時半から、集まった約300人(主催者発表)が抗議活動を繰り広げた。参加者らは「廃案に追い込め」「まだまだ間に合う、立ち上がれ」と声を上げた。日本民主法律家協会など七つの法律家団体は同日、法案に反対し、「廃案を断固として求める」とする共同声明を発表した。(黒田壮吉、写真は上田潤撮影)